



希望舞台  
トランク劇場

ふるえるような  
怒りの奥底に  
すがるような  
いのちの願いがあつた

しゃかないひつぎうた

# 糸迦内枢唄

作／水上勉

”おわりなき世の文化を紡ぐ”名古屋 ■第1部～マキノアンジュ

大橋武留(9月22日(木)のみ)

■第2部～糸迦内枢唄

【日 時】2022年9月22日(木) 18:30開演(20:40終演予定) 【前 売】一般 3,000円／学生 2,000円

【当 日 納】一般 3,500円／学生 2,500円

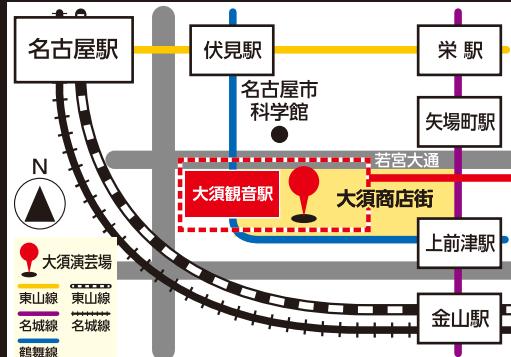
2022年9月23日(金) 13:30開演(15:40終演予定)

※開場は、各開演の30分前

## 【場 所】大須演芸場

名古屋市中区大須2丁目19-39

- 名古屋市営地下鉄鶴舞線「大須観音」駅下車、徒歩3分  
(②番出口より300m)
- 名古屋市営地下鉄鶴舞線「上前津」駅下車、徒歩10分  
(⑧番出口より700m)
- 名古屋駅から都心ループバスC-758で乗換なし  
「大須本町通りバス停」より徒歩2分



お問い合わせ先

希望舞台  
スタジオ嵐山制作工房

東京事務所

〒355-0222 埼玉県比企郡嵐山町大藏 312-3  
TEL & FAX 0493-81-6799 Mail kibou\_butai@mac.com

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5-13-24 TEL 042-383-8401  
携帯 090-2779-5917(玉井)

“おわりなき世の文化を紡ぐ”

●名古屋 090-1721-5550(小畠)

●尾張旭 090-6080-3807(山田)

# しゃかないひつぎうた 秋迦内木戻り

作／水上勉



希望舞台 トランク劇場

秋迦内は秋田県にあった村の名前（現・大館市）。その地で代々、火葬場の仕事をしている家族とその仕事を引き継ぐことになった末娘、藤子の物語。大酒飲みのお父・弥太郎が死んだ日、藤子はお父を焼くカマの掃除をしている。藤子の胸にはさまざまな思い出がよみがえる…

わけへだてなきやさしさと勇気 時代に問いかける人間贊歌・水上勉の世界



《藤子》  
小泉真穂



《お父・弥太郎》  
町田政則



《お母・たね子》  
荻原ゆかり



《憲兵・平岡》  
神道明



《崔東伯》  
伊藤嘉朗



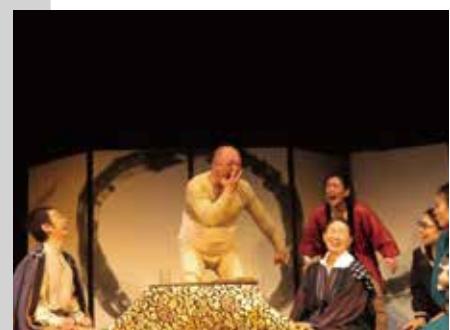
《梅子》  
中嶋みくり



《さくら》  
堀越桃子



【チエロ演奏】  
高橋義人



雪の日も 希望舞台に希望あり

無着 成恭

「希望舞台」のお芝居を見せていただいた回数は何回ぐらいになるだろうか？  
その度毎に日本の学校の教師も、このくらい真剣に、真実というものを追及すれば、日本人はもっとタチのいい、良質な人間に育つのだがなあと思うのである。

わたしは今、日本の子どもを見てても、老人を見ても、政治家をみて、宗教家をみても残念ながら、人間として立派だとは言い難い。欲張りで、自己中心的で、人の為になることをすることが、自分のためなのだ - つまり人のためにさせていただくことが、自分自身が人間として立派になり、ホトケに近づくことだ - ということを知らない。させていただく有難さということを知らない。

そうなったのは、根本的に、子育てと教育が間違っているからだろう。つまり、日本人は本当のことを教わっていないからだ。先進国といわれる国（たとえば池上彰氏がテレビで紹介したフィンランドの教育）などでは、子どもに何を教えたならば教えたことになるのか - について悩まない教師は教師ではない。教科書は教師自身が作るのであって、国家は関係してはいけない。教育は政治に支配されてはならない - などということと比較しても、日本は政治的に、支配者の都合のよいことしか教えてはいけないという点で、極めて後進国である。

日本人は本当のことを教えられていない。そのところにメスを入れているのが希望舞台のグループだ。希望舞台の芝居を見ていると、そのところをわからせたがっているということがよくわかる。

他人のよろこびを 自分のよろこびとし 他人の悲しみを 自分の悲しみにするそんな、日本人を作るためにがんばっているのが希望舞台の仲間なのだ。



旅公演の楽屋で、水上勉さんと

## スタッフ

演出 / 由井數 音楽 / 余田崇徳 美術 / 繢寿菴・杜江良  
コスモス画 / 荒木幸史 舞台監督 / 米田亘 照明 / 高橋康孝  
音響効果 / 余田崇徳・廣瀬里奈  
題字 / 武田昭龍 制作 / 玉井徳子  
協力 / 株式会社ぷろだくしょんバオバブ  
有限会社プロダクション東京ドラマハウス